

- (1) 水田周辺の雑草地などが飛来源となるので、出穂の10日前頃までに畦畔の草払いなどは場管理に努め、発生密度の低下を図る。
- (2) 斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期と穂揃期の7～10日後（乳熟後期）の2回防除が基本である。特に乳熟後期の幼虫の発生には十分注意する。
- (3) イネカメムについては本年の発生は少ないが、本田での発生は出穂期頃で、発生が多いと減収する。本種は他の斑点米カメムシより発生がやや早いため、出穂期前後には場を見回り、本種の発生を認めたら、直ちに防除を実施する。
- (4) 防除の際は、農薬の使用基準を遵守し、農薬がほ場外に飛散しないようにする。

6 参考データ

表1 普通期水稻周辺のイネ科雑草地における斑点米カメムシ類の地域別捕獲状況
(令和8年8月4日～7日)

地 域 ^{注1)}	調査 箇所数	捕獲 ^{注2)} 箇所率(%)	平均 捕獲虫数	程 度 別 発 生 箇 所 割 合(%) ^{注3)}					中程度以上の 発生割合合計
				甚	多	中	少	無	
南 薩	20	50.0	1.4	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
北薩平坦	40	80.0	9.0	0.0	7.5	22.5	50.0	20.0	30.0
北薩山間	36	58.3	4.5	0.0	0.0	16.7	41.7	41.7	16.7
大 隅	12	75.0	8.0	0.0	8.3	0.0	66.7	25.0	8.3
県全体	108	66.7	6.0	0.0	3.7	13.9	49.1	33.3	17.6
県全体 ^{注4)}		78.5	6.9	1.2	3.0	16.7	57.7	21.4	20.9

注1) 南薩:日置市(1)、いちき串木野市(1)、南九州市(3)
北薩平坦:阿久根市(1)、出水市(2)、薩摩川内市(3)、霧島市(2)、始良市(2)
北薩山間:薩摩川内市(1)、伊佐市(4)、さつま町(3)、湧水町(1)
大隅:鹿屋市(1)、曾於市(2)の計27地点
注2) 捕獲箇所率(%)＝捕獲箇所数/調査箇所数×100
注3) 発生程度基準:すくい取り調査(捕虫網20回振り)の捕獲虫数(甚:61頭以上、多:60～31頭、中:30～11頭、少:10～1頭、無:0頭)
注4) 平年は過去5か年(2021～2025年)の平均値

表2 普通期水稻周辺のイネ科雑草地における斑点米カメムシ類の種別捕獲状況
(令和8年8月4日～7日)

地 域	調査 箇所数	項目	クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	ミナミアオ カメムシ	シラホシ カメムシ	イネ カメムシ	アカスジ カスミカメ	合計
南 薩	20	平均捕獲虫数 ^{注1)}	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.6	1.4
		捕獲箇所率(%) ^{注2)}	10.0	25.0	0.0	0.0	0.0	15.0	50.0
北薩平坦	40	平均捕獲虫数	0.9	4.6	0.0	1.1	0.1	2.4	9.0
		捕獲箇所率(%)	35.0	75.0	0.0	30.0	5.0	32.5	80.0
北薩山間	36	平均捕獲虫数	0.2	2.6	0.1	0.2	0.0	1.3	4.5
		捕獲箇所率(%)	11.1	41.7	3.0	5.6	3.0	22.2	58.3
大 隅	12	平均捕獲虫数	3.5	1.4	0.0	0.2	0.0	2.9	8.0
		捕獲箇所率(%)	17.0	50.0	0.0	16.7	0.0	41.7	75.0
県全体	108	平均捕獲虫数	0.8	2.8	0.02	0.5	0.03	1.8	6.0
		捕獲箇所率(%)	20.4	51.9	1.0	14.8	2.8	26.9	66.7
		種別構成比(%) ^{注3)}	14.2	47.0	0.3	8.6	0.5	29.5	100.0
県全体 ^{注4)}		平均捕獲虫数	0.7	2.7	0.01	0.2	0.3	3.1	6.9
		捕獲箇所率(%)	14.5	59.8	1.1	11.2	7.5	37.8	78.5
		種別構成比(%)	9.3	37.1	0.4	3.3	3.8	46.1	100.0

注1) 平均捕獲虫数＝総捕獲虫数/調査箇所数
注2) 捕獲箇所率(%)＝捕獲箇所数/調査箇所数×100
注3) 種別構成比(%)＝捕獲虫数/総捕獲虫数×100
注4) 平年は過去5か年(2021～2025年)の平均値